

# 1. 奥入瀬十和田利活用協議会 準備会の概要

- 協議会設立前に、協議会の目的の共通認識、上位計画・各種法規制の確認の場、今後の協議会のロードマップの共有、「いつまでに何を決めるのか」「地元が主体となった運用スタイルの必然性」等の認識、社会実験のステップアップの共有を図るため、準備会を開催。
- 3部会のコアメンバー、幹事会員の担当者を対象に実施し、計33組織・59名参加。

【準備会の内容】 令和5年6月5日（月） 13：00～17：00 十和田市民文化センター生涯学習ホール

(1) 奥入瀬十和田利活用協議会の概要

本格運用へカウントダウン！ ～新たな社会実験のステージへ～

青森県 県土整備部 道路課 整備推進グループ 主査 倉谷

(2) 新しい「奥入瀬ブランド」構築のために

NPO法人奥入瀬自然観光資源研究会 河井理事長

(3) 自然公園法の制度～奥入瀬・十和田の保護と利活用～

環境省 東北地方環境事務所 十和田八幡平国立公園管理事務所 国立公園保護管理企画官 新田一仁

(4) 特別名勝及び天然記念物十和田湖および奥入瀬溪流の概要と文化財保護法の規制等について

青森県 教育庁 文化財保護課 文化財グループ 総括主幹 伊藤由美子



**自分たちが新しい「OIRASE」を創る**

**どうすれば環境を保全しながら、地域が潤う持続可能な利活用が可能か？**

**について共通認識を図った。**

# 出席した組織

## ◆幹事会員

国	十和田八幡平国立公園管理事務所長
	国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所長
	東北運輸局青森運輸支局長
	青森県自然保護課長
	青森県道路課長
県・市・警察	青森県観光企画課長
	青森県上北地域県民局地域整備部長
	十和田市長（幹事会長）
	七戸町商工観光課長
	十和田市農林商工部長
民間	秋田県鹿角振興局総務企画部長
	小坂町観光産業課長
	十和田警察署長
	焼山町内会長
	休屋町内会長
オブザーバー	宇樽部町内会長
	奥入瀬溪流温泉町内会長
	休平町内会長
	大川岱町内会長
	国土交通省 東北地方整備局 道路計画第一課長
東北運輸局 交通企画課長	
東北運輸局 観光地域振興課長	
青森県河川砂防課長（担当者出席）	
東北電力(株)青森発電技術センター所長	

※オブザーバー以外はご本人の出席のみを表示。  
ご本人ではないが、部会員として担当者が出席した組織あり。

## ◆環境教育部会コアメンバー

国	十和田八幡平国立公園管理事務所	民間	(一社)十和田湖国立公園協会
	林野庁東北森林管理局 三八上北森林管理署		(一財)自然公園財団十和田支部
	青森県文化財保護課		NPO法人 奥入瀬自然観光資源研究会
	青森県自然保護課		NPO法人 十和田奥入瀬郷づくり大学
市	十和田市教育委員会	コーディネーター兼アドバイザー	幸丸委員

## ◆観光部会コアメンバー

国	国土交通省東北地方整備局 青森河川国道事務所 東北運輸局青森運輸支局	民間	(一社)七戸観光協会	
	県・市		青森県観光企画課 上北地域県民局地域連携部 十和田市農林商工部 七戸町商工観光課	NPO法人青森県ウォーキング協会
			秋田県鹿角振興局地域企画課 小坂町観光産業課	奥入瀬溪流温泉旅館組合
民間			(公社)青森県観光国際交流機構 「道の駅」奥入瀬 「道の駅」しちのへ (一財)十和田湖ふるさと活性化公社 (一社)十和田奥入瀬観光機構	十和田商工会議所
			十和田湖商工会	
	(公社)十和田青年会議所			
星野リゾート 奥入瀬溪流ホテル				
奥入瀬森のホテル				
(合同)十和田ガイドハウス 權				
(株)ESARIO				
十和田湖・奥入瀬GUIDEの会				
十和田湖自然ガイドクラブ				
九戸委員				

## ◆道路交通部会コアメンバー

国	国土交通省東北地方整備局 青森河川国道事務所 東北運輸局青森運輸支局	民間	(一社)青森県タクシー協会	
	県・市		青森県企画政策部交通政策課 青森県県土整備部道路課 青森県上北地域県民局地域整備部 青森県警察本部交通部交通規制課 十和田警察署 十和田市建設部	(公社)青森県バス協会
			(公社)青森県トラック協会	
十和田地区交通安全協会				
十和田観光電鉄(株)				
ホテルレジャー事業部				
JRバス東北(株)青森支店				
ササキ石油販売(株)				
武山委員				

## 2. 講演の主な内容 (1)



### 青森県県土整備部道路課長あいさつ

- これまで「奥入瀬渓流利活用検討委員会」において9年間、16回にわたり産学官連携による活発な議論がなされてきた。
- 今後設立する「奥入瀬十和田利活用協議会」では、この議論の成果に有機的な化学反応を起こさせるタイミングに来た。
- 今日の準備会では、我々が進むべき基本ベクトルを共有したい。
- 我々の最大のミッションは、奥入瀬・十和田湖地域が自然環境と生業とが共存した世界に誇れるオンリーワンの財産として次世代に引き継いでいくこと。



### 奥入瀬十和田利活用協議会の概要 (事務局代表 青森県県土整備部道路課)

- 準備会の目的を共有し、今後バイパス開通によって奥入瀬が新しくなること、その新しい奥入瀬は協議会、幹事会、部会で創る。
- これまでの取組として、バイパス工事の目的、奥入瀬渓流利活用検討委員会、奥入瀬ビジョン、マイカー交通規制、知っていただく取組を紹介。
- 協議会の設立経緯、協議会・幹事会・部会の役割を説明し、ロードマップでR6に事業計画案を、R8頃に事業計画を作成していくことを説明。
- 社会実験を、これまでの「知っていただく」ための社会実験から、将来を見据えた社会実験へステップアップすることを共有。



### 新しい「奥入瀬ブランド」構築のために (NPO法人奥入瀬自然観光資源研究会 河井理事長)

- 自然観光においては、データや記録の収集が必要であり、情報の欠如が後続の人々への伝達を困難にしている。奥入瀬の観光資源である自然が、奥入瀬のどこに・何が・どのように存在しているか、奥入瀬自然観光資源研究会では9年間リサーチし、書籍として共有を図ってきた。
- 奥入瀬の特徴は、国道があるということ。アプローチとエスケープが非常に容易。
- 新しい「奥入瀬ブランド」の構築としては、「自然の見方を学ぶための日本初の野外博物館」「自然の見方&楽しみ方が散策感覚で得られる学びの場」「静かで落ち着いた自然散策を楽しめる知的な観光地」が適しているのではないかと考えている。

## 2. 講演の主な内容



### 自然公園法の制度～奥入瀬・十和田の保護と利活用～（十和田八幡平国立公園事務所）

- 自然公園法の目的は、自然の保護と利用、国民の保健、休養と教化、生物多様性の確保。所有権に関わらず、区域を設定して開発を制限する。日本には34ヶ所の国立公園がある。
- 十和田八幡平国立公園は十和田八甲田地域と八幡平地域に分けられ、中でも奥入瀬溪流は代表的な景観。
- 公園計画には保護と利用の両面がある。公園計画に基づき、特別保護地区から普通地域までの規制区域が設定され、利用のための施設が設置される。マイカー規制も導入され、地域の関係者の協力によって実施。公園事業者は公園内の施設の整備と運営を担当し、公共団体や民間団体向けの交付金や補助金もある。
- 昨年の法改正により、自然体験活動促進計画制度も導入され、国立公園内でのソフト的な取り組みがしやすくなった。



### 特別名勝及び天然記念物十和田湖および奥入瀬溪流の概要と文化財保護法の規制等について（青森県教育庁文化財保護課）

- 文化財は学術上貴重な有形・無形の財産であり、十和田奥入瀬溪流は特別名勝及び天然記念物として自然的景観の保護が重要である。
- 文化財保護法では、史跡名勝天然記念物に関して、保存に影響を及ぼす行為には文化庁の許可が必要であり、保存管理計画を策定して保存活用を進めることが求められている。
- 文化庁の許可が得られれば、申請された行為が実施できる。
- 文化財は長期的な保全が求められるため、積極的な利活用は制限されることがある。ただし、現状変更の申請と文化庁の協議により、一部の行為は実施可能であり、終了報告や期間延長の申請、計画変更も可能である。
- 文化財保護法のスタンスは、戦前の絵葉書に示されており、文化財を未来に残すために維持と継承に向けた取り組みが重要であり、協力を呼びかけている。

# 3. 幸丸委員・九戸委員からのコメント概要



## 幸丸委員からのコメント

- 十和田国立公園に携わってから30年。青樺山バイパスに関わってから23年。
- 自然公園行政では、昔から環境教育、フィールドミュージアムも取り組んできたが、なかなか進んできていなかった。河井さんの話を聞いて、いよいよ奥入瀬において実現すると期待している。
- 文化財保護は忘れがちになってしまう。今回、自然公園と文化財保護の両方の話が聞け、非常に良かったのでは。
- これから、化学反応させて、いい計画を実現させていくことが大事。私は温故知新の役割を担って関わっていきたい。



## 九戸委員からのコメント

- 観光の立場から奥入瀬溪流利活用検討委員会に入った。青樺山バイパスが完成したとき、国道は車は通さない。でも、お年寄りや子供など弱者をどうするのかと考えてきた。奥入瀬は弱者も一緒に入って、体感できる場所。私の叔父も救われた。
- 自分の庭のように奥入瀬十和田を思ってきた。多くの県民はそう思っている。そこに不自由が生じる。皆さんの中に窮屈な思いが出てくると思う。
- みなさんの奥入瀬。将来に残すためにどうやっていくか、ルールを考えていくのがこの協議会だと思っている。
- 昔のように、大型バスでたくさん人がくることはできない。じゃあ、事業者、市は何をすればいいのか。グリス口を導入するためには、お金も知恵も必要。
- 「私たちが新しいOIRASEを創る」ということは、ここで参加している一人一人がどういう奥入瀬にしたいか、0か100ではなくて、ここは30・70という風にみんながどこか少し我慢しながら次に残すための議論をしてほしい。



## 会場の様子

参加者から質問や意見など特になかった。